

# 平成31(2019)年度病害虫発生予報第1号

平成31年4月3日  
愛知県

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	平年並	県全域	前年の穂いもちの発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	赤さび病	平年並	県全域	3月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない 4月の降水量はほぼ平年並 4月の気温は平年並か低い	± ± ±～-
	赤かび病	平年並 (やや早い)	県全域	4月の降水量はほぼ平年並 ムギの生育はやや早い	±

### ・留意事項

越冬世代のヒメトビウンカにおけるイネ縞葉枯病ウイルスの保毒虫率は、県平均で3.2%（前年2.1%）でした。平年並の昨年に比べ高くなっているため、注意が必要です。生育初期のイネ縞葉枯病ウイルス感染を防ぐため、移植栽培では育苗箱施薬、不耕起V溝直播栽培では殺虫剤の種子塗抹でヒメトビウンカを防除しましょう。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）やイネ苗立枯細菌病は、出芽期以降の極端な高温や低温によって発生が助長されます。育苗期の温度管理などに気をつけましょう。

イネの温湯種子消毒を行う際は、定められた処理温度、時間を守りましょう（例：60℃、10分）。微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10℃以下だと効果が劣るので注意しましょう。消毒後は病原菌による汚染がないように管理しましょう。

ムギ類赤かび病感染予防の防除適期は、開花期です。天候の推移に留意して、生育状況に応じて適宜防除を進めましょう。詳細は、本日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参考にしてください。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	多い	県全域	越年発病葉率は高い 4月の降水量はほぼ平年並	±
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	3月上旬の発生量はやや多い 4月の気温は平年並か低い	±～-
ナシ	赤星病	やや多い	県全域	前年の発生量はやや多い 4月の降水量はほぼ平年並	±
	黒星病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 4月の降水量はほぼ平年並	±
モモ	せん孔細菌病	やや多い	県全域	前年秋期の発生量はやや多い 4月の降水量はほぼ平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	前年夏の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	多い	県全域	前年の発生量は多い 4月の降水量はほぼ平年並	±
果樹共通	カメムシ類	平年並	県全域	チャバネアオカメムシの越冬 成虫量は平年並	±

### ・防除対策

#### [ウンシュウミカン・そうか病、ミカンハダニ]

3月15日発表の「カンキツにおける病害虫防除情報第1号」を参考に防除しましょう。

#### [ナシ・赤星病]

スコア顆粒水和剤やチオノックフロアブルなどで防除しましょう。

#### [モモ・せん孔細菌病]

春型枝病斑は伝染源になるので、見つけ次第除去しましょう。アグリマイシン-100やマイコシールドなどで防除しましょう。

#### [ブドウ・黒とう病]

展葉初期に、キノンドーフロアブルやジマンダイセン水和剤などで防除しましょう。耕種的防除等は、3月4日発表の「ブドウ黒とう病休眠期防除情報」を参考にしてください。

### ・留意事項

長久手市におけるブドウ、ナシ、モモの生育は、4月3日現在、昨年よりやや遅れている状況です。生育ステージに合わせた適期防除を心がけましょう。

果樹カメムシ類の越冬量及び6月末までの飛来数予測等は、本日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」を参考にしてください。

ナシヒメシクイ越冬世代の成虫がフェロモントラップに誘殺され始めています。成虫はモモの新梢に産卵し、幼虫が芯折れを発生させます。フェロモントラップの誘殺状況を参考に適期を逃さないように防除しましょう。

昨年フジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、越冬した幼虫が移動し始める新梢展葉期にアプロード水和剤などで防除しましょう。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の降水量はほぼ平年並	± ±
トマト (施設)	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い	+
	灰色かび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	すすかび病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ハダニ類	やや多い	県全域	3月下旬の発生量はやや多い	+
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	べと病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並 4月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
	灰色かび病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない 4月の日照時間はほぼ平年並	- ±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	3月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	少ない	県全域	3月下旬の発生量は少ない 4月の日照時間はほぼ平年並	- ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	3月下旬の発生量はやや少ない	-
	ハダニ類	少ない	県全域	3月下旬の発生量は少ない	-

### ・防除対策

#### [ナス・うどんこ病]

スコア顆粒水和剤やパンチョTF顆粒水和剤などで防除しましょう。

#### [ナス・ハダニ類]

カネマイトフロアブルやマイトコーネフロアブルなどで防除しましょう。

### ・留意事項

キャベツでは、コナガが発生しているほ場があります。発生ほ場は、「平成30年度発生予察注意報第8号」を参考に、速やかに防除しましょう。また、収穫残さは本種の発生源になるので、収穫終了後は残さを速やかにすき込みましょう。

ナスでは、灰色かび病、すすかび病が多発しているほ場があります。ほ場での発生状況に注意し、適切に防除しましょう。

イチゴでは、ハダニ類の発生ほ場が増加しており、多発しているほ場もあります。多発すると防除が困難になるので、早めに防除しましょう。また、アザミウマ類の発生が多いほ場があります。例年、発生量が増加する時期です。施設開口部や吸気口の付近など発生しやすい場所をよく観察し、発生を認めたら速やかに防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮し農薬を選びましょう。

トマトでは、気温の上昇に伴い、トマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するタバココナジラミやトマト黄化病（TOCV）を媒介するコナジラミ類が増殖しやすくなります。媒介虫の防除を徹底し、発生を防ぎましょう。ウイルス病は、伝染環を断つことが重要です。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

## 花き

### ・留意事項

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類が増加するので、親株床も含めて防除しましょう。

発生量及び発生時期の基準

発生量	平年並 やや多い やや少ない 多い 少ない	平年値を中心にして40%の度数に入る幅 平年並の外側20%の度数に入る幅 同上 上記三者の外側10%の度数に入る幅 同上
発生時期	平年並 やや早い やや遅い 早い 遅い	平年値を中心にして前後2日以内 平年値より3～5日早い 平年値より3～5日遅い 平年値より6日以上早い 平年値より6日以上遅い

注）平年値＝原則として直近10か年の平均値とする。

フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

### 参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方气象台3月28日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率70%です。2週目は、平年並の確率50%です。

3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：40% 高い：20%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%